

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
石川 壽一
印刷所
(株)東北プリント



来期ミルクキャンペーンキャラクター(ミルクレディー)が決定しました



牛乳・乳製品フェア2014 仙台市勾当台公園 平成26年10月18・19日 (写真提供 宮城県牛乳普及協会)

もくじ

CONTENTS

第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向けて……………2	〈畜試便り〉新しい基幹種雄牛「勝洋」号について……10
肉用牛の風邪予防対策について……………3	平成27年度宮城県農業大学校入学生の募集 (一般入学試験：後期)……………11
第54回仙台牛枝肉共進会終了報告……………4	〈衛生便り〉高病原性鳥インフルエンザについて……11
平成26年度上半期生乳需給状況について……………5	〈Newface〉……………12
高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ防疫演習を開催 しました……………6	〈農業大学校生の抱負〉先進農業体験学習を終えて……12
牛乳・乳製品フェアを開催しました……………7	
豚流行性下痢 (PED) 防疫マニュアルについて ……8	
みやぎまるごとフェスティバル2014が開催されました…9	
2014東日本デリーショー受賞結果……………9	
〈人の動き〉NOSA I宮城、全農みやぎ……………9	



**みやぎの
畜産情報
発信基地**

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率70%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

第11回全国和牛能力共進会宮城大会に向けて

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会

第11回全国和牛能力共進会宮城大会のマスコットキャラクター募集

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会では、共進会の開催と、「仙台牛」ブランドの推進や宮城県の魅力をPRするとともに、震災復興支援への感謝の気持ちを全国へ発信するため、大会のシンボルとなる和牛のマスコットキャラクターを募集します。

応募作品の中から、**最優秀賞（採用作品、1点）**には賞金10万円と仙台牛1kgを、**優秀賞（3点）**には賞金2万円と仙台牛1kgをそれぞれ贈呈します。

たくさんのご応募、お待ちしております。

■募集内容

「大会マスコットキャラクターのデザイン画」

- ①多くの人が親しみやすいイメージの作品であること。
- ②和牛（黒毛和種）を基調としたオリジナルキャラクターであること。
- ③5年に一度の“和牛のオリンピック”を盛り上げ、県内外にアピールするにふさわしいデザインであること。
- ④着ぐるみ（大人着用）やグッズなど、幅広い用途で活用できるデザインであること。
- ⑤マスコットキャラクターは単体で一つの作品とすること。

■応募資格

宮城県内にお住まいの方を対象とします。（プロ・アマ問わず）

■募集期限

平成27年1月30日（金）

（郵送は当日消印有効、持参及び電子メールは当日到着分まで有効。）

■応募方法

- (1) 郵送、持参又は電子メール（添付ファイルは5MB以下）のいずれかで応募してください。郵送、持参で応募する場合は、作品が折れないように提出してください。
- (2) 作品は、手書き又は電子データ（JPEG形式もしくはPDF形式）によるものとします。
- (3) 1人何点でも応募できます。ただし、それぞれ異なる作品に限ります。
- (4) 作品は、指定の応募用紙又はA4判の白紙用紙を縦長に使用し、1枚につき1作品（全身像）を描画してください。
《※指定の応募用紙はホームページから取得できます。》
- (5) 作品ごとに、次の事項を明記してください。
 - ①作品の説明、②郵便番号、③住所、④氏名（ふりがな）、⑤年齢、⑥連絡先、⑦性別、⑧職業（学校名・学年）
 《※①～⑥までは必須》
 《※募集チラシの応募票を貼り付けしても可》
- (6) 作品は着色してください。彩色は自由ですが、単色・モノクロ印刷で使用してもイメージなど損なわれないものとします。
- (7) 応募に関する一切の費用は、応募者の負担となります。

■審査・発表

- (1) 審査は実行委員会において厳正に行い、最優秀賞作品を大会マスコットキャラクターとします。

- (2) 入賞作品及び入賞者の発表は、本人に通知する他、平成27年3月以降（予定）にホームページへの掲載や報道機関等により公表します。

■個人情報の取り扱い

- (1) 作品に係る個人情報については、応募状況の確認、作品の審査・発表、入賞者への通知・表彰及び公表以外の目的で使用することはありません。
- (2) 入賞作品のホームページへの掲載や報道機関等で公表する際は、入賞者の氏名、市町村名（学生は学校名、学年）について公表します。

■応募に係る注意事項

- (1) 著作権の取り扱いについて
 - イ 入賞者は、作品の入賞と同時に実行委員会に対して入賞作品の著作権を譲渡するものとし、その著作権（著作権法第27条及び28条に定める権利を含む）、二次使用权、商品化、放送に関する権利、商標権等の一切の権利は、実行委員会に帰属するものとします。
 - ロ 入賞者は入賞作品に関し、著作者人格権に基づく権利行使は行わないこととします。
 - ハ 入賞者と実行委員会とは、上記の考えに基づき著作権譲渡に関する契約を締結するものとします。
- (2) 応募作品は自作、未発表のものに限ります。応募作品の著作権等に関わる問題が生じた場合は、

第11回全国和牛能力共進会宮城大会
マスコットキャラクター大募集!!

最優秀賞 1点
賞金10万円、仙台牛1kg

優秀賞 3点
賞金2万円、仙台牛1kg

募集期限 平成27年1月30日(金)

【応募先・問合せ先】
第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会事務局（宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号）
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
TEL: 022-211-2853 FAX: 022-211-2859
E-mail: miyagi@nrcf.miyagi.jp
ホームページ: <http://www.nrcf.miyagi.jp/site/nrcfmiyagi/nyasyu-zenkou.html>

全て応募者の責任となります。

- (3) 既存キャラクターの模倣(著しく似通ったものを含む)、公序良俗その他法令の定め反するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権その他第三者の権利を侵害しているもの、他のコンテストに応募しているものは審査の対象外になります。また、入賞後であっても、これらの条件に違反していたことが判明した場合、入賞は無効となります。
- (4) 採用にあたり最優秀賞決定後、作品の一部を補作・修正することがあります。
- (5) 応募作品は返却しません。また、応募作品は提出後に変更できません。
- (6) 賞金には税金がかかります。賞金に係る税金については、最寄りの税務署に相談してください。
- (7) マスコットキャラクターの愛称(名前)については、別途募集する予定です。

- (8) 募集要項に記載された事項以外について取り決める必要が生じた場合、実行委員会の判断により決定します。応募者はその内容に同意できなかった場合、応募を撤回できますが、応募にかかった一切の費用は返却しません。
- (9) 応募した時点で、募集要項の記載事項について同意したものとします。

■応募先・問合せ先

第11回全国和牛能力共進会宮城県実行委員会事務局
 (宮城県農林水産部畜産課 内)
 〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
 TEL: 022-211-2853 FAX: 022-211-2859
 E-mail: miyagi-zenkyou@pref.miyagi.jp
 ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/site/nourinsui/miyagi-zenkyou.html>
 (宮城県農林水産部畜産課 大久保潤一)

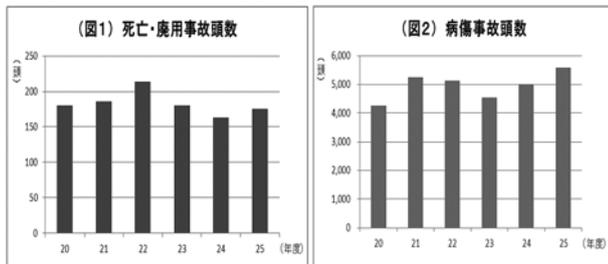
肉用牛の風邪予防対策について

NOSA | 宮城 家畜部

季節も変わり、しだいに寒さを肌で感じられるようになってきました。

これからの季節は、牛の風邪(呼吸器疾病)、下痢(消化器疾病)が多く発生する時期です。今回は、肉用牛の風邪予防対策についての話をしたいと思います。

はじめに、家畜共済に加入している肉用牛で、風邪(肺炎)で死亡あるいは廃用となった頭数と治療を行った頭数を図にまとめてみました。(図1、2)



風邪(肺炎)で死亡・廃用となる牛並びに治療を受ける牛が多く発生しているが現状です。

このことは、畜産農家にとってもさまざまな損失が増加していることはご承知と思います。

治療費の増加による損失、死亡した際の損失など目に見える損失もありますが、それ以上に日増体重の減少による損失や肥育牛では肉質低下による損失が大きくなります。「肺炎の治療回数が増えると、死亡率が6倍に上がり、体重は6ヶ月で10kgも低下。治療を受けたものは肉質も下がり、収入減の79%が肉質低下による損失」とわかっています。これらの「損失」を減らすには何をしたら良いでしょうか。

やはり、病気にならないための予防をしなければ損失は減りません。予防にはいろいろな方法がありますが、全ての土台は環境です。環境が良い状態であれば抗生物質やワクチンの効果は発現しません。

良好な環境で飼養されている牛と劣悪な環境で使用されている牛にワクチンを接種した効果については、データを出さなくとも想像できると思います。

さて、風邪予防対策を次のとおりまとめてみました。

- 1 牛のストレスの回避、緩和

基本として、牛がしっかりと採食し、ゆっくりと寝られる状態を維持しましょう。

 - (1) 牛舎環境の整備によるストレス回避

換気対策: 畜舎内の有毒ガス除去のために、定期的な換気と牛床管理(糞尿処理)を行う。

防寒対策: 哺乳子牛では、保温ランプ・電気マット・カウジャケットを使用する。冷風が直接牛体に当たらないよう防風ネット等を設置する。

水場の管理: ウォーターカップ等の凍結防止対策を行う。

密飼い防止: 群飼頭数は5頭前後、一頭面積は4.2~6.0㎡が適切。
 - (2) 離乳、除角、去勢、長期輸送、環境の激変等によるストレスの緩和

離乳時期の検討、除角・去勢時の疼痛緩和の検討、導入後の隔離飼養の実施を行うなど牛のストレスを緩和させる。
- 2 消毒

風邪(感染症)予防の基本である消毒は忘れずに実施する。

消毒槽の設置: 牛舎出入り口に長靴消毒用の消毒槽を設置する。また、消毒液はこまめに交換する。
- 3 適切なワクチンの使用

適切な時期に適切なワクチンを接種し風邪(肺炎)を予防する。ワクチンも様々な種類があり、接種時期も違いがありますので注意が必要です。

最後に、「この餌を与えたら増体が良くなった。」「この添加剤を混ぜたら肉質が良くなった。」などコストをかけ利益を追求する方法も間違いではありません。今回は、「損失をできるだけ減らす」=「予防対策」についての話をしました。わかりきっていることではありますが、いま一度牛の気持ちを考えてあげることも必要かもしれません。

(家畜部家畜課 高橋孝幸)

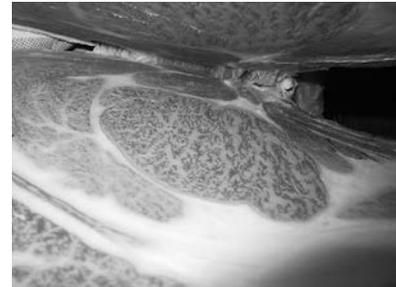
第54回仙台牛枝肉共進会終了報告

全国農業協同組合宮城県本部

農林水産祭参加 第54回仙台牛枝肉共進会は、11月6日～10日の期間で仙台市中央卸売市場食肉市場において開催され、盛会のうちに終了しました。

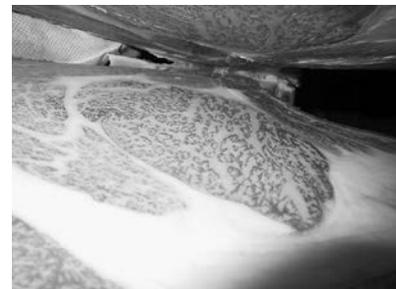
(チャンピオン牛)

第1部 黒毛和種 去勢の部
 出品者 高橋 猛 (JA古川)
 血統 父：茂洋 母の父：福之国
 格付 A-5 BMS 12
 枝肉重量 580kg
 枝肉単価 5,016円



第1部 チャンピオン

第2部 黒毛和種 雌の部
 出品者 窪田宗一 (JA栗っこ)
 血統 父：北乃大福 母の父：安福久
 格付 A-5 BMS 12
 枝肉重量 420.5kg
 枝肉単価 5,555円



第2部 チャンピオン

1) 出品財の概要について

第1部 去勢

格付等級A5 BMS12で枝肉重量580kg胸最長筋面積(ローズ面積)75.0cm²。バラの厚さ10.4cm、皮下脂肪の厚さ3.8cm、歩留り75.5%。

外観は、胸最長筋及びバラをはじめ各部が充実し釣合も良く、脂肪付着については、皮下脂肪並びに胸腹腔内面のいずれも適度で無駄がなかった。

肉質は、肉色が明るく鮮明・光沢に優れ、脂肪交雑の形状は繊細で切開面の各筋肉にも一様に入っている。なかでも脂肪質については程良い締まりと粘りがあり赤肉と馴染んだ大変に優れた枝肉であった。

2) 審査結果

出品頭数は、200頭(去勢150頭、雌50頭)、枝肉重量の平均、去勢542.3kg、雌447.8kgであった。

枝肉等級の格付状況は、5等級129頭(64.8%)、4等級58頭(29.1%)、3等級11頭(5.5%)、2等級1頭(0.5%)となり、4等級以上(上物率)は、93.9%であった。

外観では、枝肉重量の増加により胸最長筋及びバラの数値は伸びたものの、それを上回った皮下脂肪の厚さが歩留基準の減少に影響しB等級が前回の2頭から9頭へ大幅な増加となった。

肉質では、脂肪交雑の平均値がBMS No8.4と昨年より0.1%減少し、5等級率(仙台牛率)でやや下回ったものの、肉の光沢及び肉締りにおいては引き続き標準を上回り、きめと共に脂肪質の良好なものが多かった。

(生産販売課 松浦浩司)

平成26年度上半期生乳需給状況について

東北生乳販連宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

1. 生乳需給状況

(1) 全国

平成26年4月～9月の受託乳量は3,566,022ト、前年同期比2.7%減少しました。地域別には、北海道2%減少、都府県3.4%の減少となっております。

(2) 東北

4月～9月の受託乳量は278,773ト、前年同期比4.2%の減少となっております。

(3) 用途別販売実績

東北の用途別販売実績は、4月～9月の飲用牛乳向け202,178ト、前年同月比1%減、特定乳製品向け29,381ト、前年同月比18.6%減少しております。その他の用途別については、はっ酵乳等向け8.2%減少、チーズ向け3.6%増加、生クリーム等向け3.7%の減少となっております。

(4) 宮城県

4月～9月の受託乳量は59,762ト、前年同期比4.3%の減少となっております。直近の9月においても前年同月比4.5%の減少となっております。また、9月の出荷戸数は580戸と前年より27戸減少しております。

平成26年度全国生乳受託実績

(単位：ト、%)

地区名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比											
北海道	308,596	96.1	326,127	97.2	318,148	97.4	320,427	98.8	314,175	99.4	301,341	99.4	1,888,814	97.8
都府県	295,640	96.4	301,554	96.2	279,906	96.1	274,045	96.2	265,476	97.7	260,587	96.9	1,677,208	96.6
全国	604,236	96.2	627,681	96.7	598,054	96.8	594,472	97.6	579,651	98.6	561,928	98.3	3,566,022	97.3

平成26年度東北生乳受託・用途別販売実績

(単位：kg、%)

県	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比											
青森	5,710,811.0	96.8	5,895,998.0	97.8	5,571,304.0	97.1	5,591,353.0	98.3	5,433,028.0	99.8	5,175,495.0	97.2	33,377,989.0	97.8
岩手	17,350,559.0	95.9	17,941,609.0	96.3	17,032,855.0	96.7	17,151,981.0	98.1	16,678,397.0	98.7	16,106,753.0	98.3	102,262,154.0	97.3
宮城	10,238,692.0	95.2	10,627,900.0	94.6	10,025,285.0	96.4	9,874,501.0	95.2	9,661,470.0	97.7	9,334,976.0	95.5	59,762,824.0	95.7
秋田	2,436,731.0	89.5	2,463,914.0	89.2	2,304,852.0	92.9	2,331,731.0	91.4	2,284,486.0	94.6	2,231,974.0	92.6	14,053,688.0	91.6
山形	5,752,278.0	93.8	5,912,551.5	92.5	5,700,501.9	95.2	5,507,651.0	91.8	5,291,330.3	92.1	5,201,354.8	97.1	33,365,667.5	93.7
福島	6,261,496.0	95.0	6,399,878.0	94.0	6,042,871.0	95.1	5,866,638.0	93.4	5,767,129.0	91.9	5,613,648.0	91.8	35,951,660.0	93.6
計	47,750,567.0	95.1	49,241,850.5	95.0	46,677,668.9	96.1	46,323,855.0	95.8	45,115,840.3	96.7	43,664,200.8	96.3	278,773,982.5	95.8

(単位：kg、%)

用途	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比											
総受託販売乳量	47,750,567.0	95.1	49,241,850.5	95.0	46,677,668.9	96.1	46,323,855.0	95.8	45,115,840.3	96.7	43,664,200.8	96.3	278,773,982.5	95.8
飲用牛乳向け	31,786,052.0	100.0	35,329,786.5	101.2	34,947,869.9	99.4	33,557,361.0	96.5	33,021,316.3	100.3	33,536,602.8	96.6	202,178,988.5	99.0
はっ酵乳等向け	5,465,973.0	91.8	5,586,132.0	89.0	5,849,253.0	92.5	6,119,498.0	91.1	5,626,709.0	92.3	5,544,474.0	94.7	34,192,039.0	91.8
特定乳製品向け	8,201,572.0	80.4	6,031,548.0	72.7	3,685,031.0	76.2	4,270,296.0	91.5	4,553,486.0	82.2	2,639,083.0	102.1	29,381,016.0	81.4
生クリーム等向け	2,025,072.0	101.6	1,995,688.0	97.5	1,934,880.0	95.7	2,065,718.0	105.6	1,629,172.0	89.1	1,693,772.0	87.6	11,344,302.0	96.3
チーズ向け	270,698.0	99.3	297,496.0	98.8	259,435.0	106.3	309,742.0	121.2	283,917.0	104.9	249,069.0	92.8	1,670,357.0	103.6
全乳哺育向け	1,200.0	50.0	1,200.0	90.9	1,200.0	100.0	1,240.0	100.0	1,240.0	100.0	1,200.0	100.0	7,280.0	84.7

平成26年度宮城県生乳受託販売実績

(単位：kg、%)

団体名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		4～9月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
みやぎの	5,716,696	94.3	5,915,380	94.0	5,589,342	96.3	5,458,858	94.5	5,404,313	98.7	5,194,302	94.4	33,278,891	95.3
全農宮城	1,616,462	97.2	1,652,400	95.6	1,578,621	96.9	1,599,236	99.2	1,539,055	98.1	1,481,052	97.9	9,466,826	97.5
宮城酪農	2,905,534	95.8	3,060,120	95.4	2,857,322	96.1	2,816,407	94.6	2,718,102	95.5	2,659,622	96.4	17,017,107	95.6
宮城県	10,238,692	95.2	10,627,900	94.6	10,025,285	96.4	9,874,501	95.2	9,661,470	97.7	9,334,976	95.5	59,762,824	95.7

(販売課 村田孝志)

高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ防疫演習を開催しました

北部家畜保健衛生所

県内では、稲刈り後の田んぼや湖沼に、白鳥や雁など、冬の到来を感じさせる野鳥が多く飛来するようになりました。渡り鳥は養鶏農家にとって最も注意が必要な「鳥インフルエンザウイルス」を保有している可能性があり、この時期は特に野鳥を介した鳥インフルエンザの鶏舎内への侵入防止対策が重要となります。

鳥インフルエンザへの危険性が高まる時期を迎えるに当たり、10月28日に宮城県北部地方振興事務所及び北部家畜保健衛生所が主体となり、「高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ防疫演習」を開催しましたので、その概要をお知らせします。

今年4月、熊本県の肉用鶏飼養農場において、高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生がありました。このとき熊本県は、防疫指針に基づく迅速な初動対応により、2農場合計112,000羽の鶏を発生確認から72時間以内に埋却処理し、周辺農場に感染を拡大させることなく終息宣言に至りました。この防疫対応は農林水産省からも高く評価されました。宮城県で万一発生した際に、同様の迅速な対応が図れるよう、熊本県農林水産部畜産課の平野講師から、実際の防疫措置を行った際の成功・失敗事案、今後の課題などを盛り込んだ、大変参考になる講演をいただきました。土・日曜日の防疫対応ではバスの急な手配が困難で、レンタカーを使って作業従事者を現地へ移動させたこと、マスコミの対応に予想以上に苦勞したこと、農場に散布した消石灰が降雨ですぐ流され農場内が泥状化し、天候により作業が困難になったことなどの紹介がありました。また熊本県知事を対策本部長としたことで、自衛隊や県警への協力依頼がスムーズに進んだこと、埋却候補地リストがあらかじめ整備されていたことなどが、迅速な防疫対応につながったとの成功事例も取り上げていました。防疫措置を進める中では、想定外の事態が多々あったとの内容は、宮城県でも共通する課題であると認識を新たにしました。

午後の部では、現地地方支部における防疫作業の従事を想定し、16名の県職員が健康調査、防護服の着脱、疑似鶏を用いた殺処分、車両消毒等の実働演習を実施し、一連の作業手順を確認しました。殺処分従事者8名は鶏を扱った経験がない職員がほとんどでしたが、疑似鶏の捕鳥から二酸化炭素注入、袋詰め及び搬出までを体験しました。車両消毒班8名は、消毒薬の希釈方法から実際の動力噴霧機を使った車両消毒と、運転手へ「車両消毒済証明書」の交付を行いました。

今回の演習は県職員、市町関係団体、警察及び養鶏農家など約180名の方の参加があり、アンケート調査では、回答者全員から「非常に参考になった」「おおむね参考になった」と高い評価をいただきました。一方「年1回の開催では少ない」「熊本県に比べ本県は準備段階で遅れていると感じた」等の厳しい意見もあり、今後の防疫演習の参考にしたいと考えています。

鳥インフルエンザが発生した際にまん延を防止するためには、「農家からの早期通報」、「迅速な防疫初動措置」、「関係機関との連携の構築」が不可欠です。未だ東アジア諸国では多様な型の鳥インフルエンザの発生が継続して確認されており、渡り鳥の飛来がピークを迎える冬期間中は、宮城県にウイルスが侵入するリスクは高い状況にあります。今後も関係者との連携強化を進めながら防疫演習を継続して開催するとともに、危機意識を高くもって防疫体制の習熟を図っていかうと考えております。



(防疫班 豊島たまき)

「牛乳・乳製品フェアを開催しました」

宮城県牛乳普及協会



10月18日(土)、19日(日)に仙台市勾当台公園において“牛乳乳製品フェア2014～子供達からの笑顔のメッセージ～”を開催いたしました。両日とも晴天に恵まれ多くの来場者で賑わいました。

ミルクステージでは、子供たちによる空手の演舞やすずめ踊り、ダンスなどのパフォーマンスステージ、一般の方から募った牛乳乳製品を使ったアイデア鍋レシピ「白菜たっぷり牛乳鍋」「味噌ミルク鍋」を大鍋で振る舞い、19日には「仮面ライダーライブ」の登場に子供たちが大喜びで大いに盛り上がりました。

ミルクキッチンコーナーでは、18日に森永乳業株式会社の島貫先生が「野菜とパルメのぺったんこ焼き」、株式会社明治の中屋先生が「カッターチーズのケーキ」を紹介、19日に雪印メグミルク(株)の高坂先生は「チーズセミナー」を行いながらチーズの試食を行いました。

ミルク情報館では、酪農家の厳しい現状を消費者へ伝える理解醸成コーナーや各乳業メーカーの商品展示コーナー、初の試みとして牛乳乳製品を使ったスイーツを販売するスイーツコーナーを設け、例年以上に人の出入りが激しくなり、多くの方へPRすることができました。

また、19日に平成27・28年度のミルクキャンペーンキャラクター選考会を開催し、来期のミルクレディー2人が決定いたしました。共進会、各種牛乳乳製品のPRイベントがある際はご協力したいと思っておりますので、ぜひお声がけ下さい。

このほか、ヤギ、うさぎなどの動物ふれあいコーナー、ポニーの乗馬体験、搾乳体験、親子手作りバター教室など盛りだくさんの内容に大人から子供まで大いに盛り上がった2日間となりました。

生産者、乳業者、牛乳宅配販売店は日々安全な牛乳の提供に努めており、消費者の皆さんの牛乳・乳製品に対する意識向上を図れるよう、なお一層の普及活動を行って参ります。



(宮城県牛乳普及協会 佐々木晶子)

豚流行性下痢 (PED) 防疫マニュアルについて

宮城県農林水産部畜産課

平成25年10月、国内では7年ぶりに豚流行性下痢 (PED) の発生が確認され、平成26年8月末までに1道37県817農場において発生が確認されました。宮城県内においても、平成26年4月中旬から、16農場で発生が確認されております。現在、本病の発生は減少しておりますが、侵入経路や感染拡大の要因分析が待たれる中、農場防疫には飼養衛生管理の徹底やワクチン接種といった引き続き効果的な防疫対策を実施することが重要です。

そのような中で、平成26年10月24日、農林水産省からPED防疫マニュアルが公表されましたので、内容について一部を紹介します。詳しくは農林水産省ホームページをご覧ください。お近くの家畜保健衛生所にお問い合わせください。

【豚流行性下痢 (PED) 防疫マニュアル】

1 基本方針

本病の農場への侵入防止、農場内でのまん延防止及び農場間の感染拡大防止のための対策を具体的に示し、本病の発生及び感染拡大を防止し、本病による被害を最小化することを目的とする。

2 発生の予防及び発生時に備えた事前の準備

(1) 家畜の所有者、関係者の取組

- ① 家畜の所有者は、飼養衛生管理基準を遵守し、発生予防、早期発見に努める。
- ② 畜産関係施設（と畜場、家畜市場、死亡獣畜取扱場等）の関係者は、施設を介して感染が拡大する可能性も踏まえ、飼養衛生管理基準に準じた取組を行う。

3 本病を疑う家畜発見時の対応

家畜の所有者は、本病を疑う症状（複数の繁殖母豚の分娩したほ乳豚で半数以上が水様性下痢、嘔吐、死亡を呈した場合等）を発見した場合には、直ちに獣医師又は家畜保健衛生所に通報し、指導を受ける。

4 防疫措置

(1) 農場における対策

- ① 農場への侵入防止対策
農場内に必要のない者の立入を禁止し、畜舎出入口での消毒、衣服の更衣等を徹底する。
- ② 発生農場内の感染拡大防止対策
豚舎内の洗浄・消毒や、子豚の発症を軽減させる対策として平時からの継続的なワクチンの使用等を実施する。
- ③ 農場間の伝播防止対策
排せつ物の適正処理、交差汚染防止対策等を実施する。

(2) 発生農場の出荷時の留意事項

発生農場から豚を出荷するに当たり、関係者は出荷先毎にマニュアルで示す事項（家畜保健

衛生所への出荷計画書の提出、他農場や子豚市場に出荷する際の遺伝子検査の実施等）に留意する。

(3) 非発生農場への復帰の考え方

発生農場は、農場全体で症状がみられなくなったことを家畜防疫員が臨床検査により判断した時点から8週間が経過した場合、非発生農場と同様の扱いとすることが出来る。ただし、症状がみられなくなってから4週間が経過した農場であって非発生農場への復帰を希望する農場は、検査を実施し陰性である場合は非発生農場と同様の扱いとすることができる。

5 発生農場情報の共有

(1) 都道府県による情報の提供

原則として、発生農場を担当する家畜保健衛生所の管内に所在する養豚農場、疫学的に関連のある養豚農場、及びと畜場等の畜産関係者に発生農場の農場名及び住所を提供する。なお、円滑な情報共有や混乱の未然防止の観点から、情報を提供することについてあらかじめ各農場に周知するとともに、発生時にも発生農場に対し、提供する情報の内容等について連絡する。

(2) 発生農場による情報提供

都道府県は、発生農場に対して、当該農場に出入りする立入業者（ガス業者、建築業者等）に情報提供するよう指導を行う。

6 特別防疫対策地域の指定

都道府県は、本病の侵入・拡大リスクが高まった地域を、必要に応じ、特別防疫対策地域に指定し、次の防疫措置を実施する。

(1) 報告徴求

毎日、健康観察の結果を報告するとともに、週1度、ほ乳豚の全死亡頭数を報告するよう指導する。

(2) 消毒等の実施

農場及びと畜場の出入口並びに農場敷地内の豚舎周囲における緊急消毒等を実施するとともに、必要に応じ、公道等に消毒ポイントを設置する。

7 ワクチン

家畜の所有者は、ワクチンの特徴を十分理解し、用法・用量に従った使用、母豚の健康管理、衛生的な飼養環境等に留意し、適切にワクチンを使用する。また、獣医師及び販売業者は家畜の所有者がワクチンを適切に使用するための指導を行う。

(衛生安全班 高森広典)

みやぎまるごとフェスティバル2014が開催されました

宮城県食肉消費対策協議会

10月18日・19日、仙台市・勾当台公園をはじめ県庁前広場、仙台市民広場において、好天のもと大勢の方々
が来場し、「みやぎまるごとフェスティバル2014」が開催されました。

食肉に関する知識の普及啓蒙・消費拡大をPRするため、宮城県食肉消費対策協議会として参加し、食肉に
関するパネルの展示、そのパネルを閲覧してアンケートにご回答いただいた方に『仙台黒毛和牛』及び県内
産豚肉、『宮城の豚みのり』、『しもふりレッド』の試食を、約1,200名のお客様に楽しんでいただきました。

パネルについては、『お肉が家庭に届くまで!』と題しまして、牛や豚を育て出荷し肉になるまでの期間や
道程を示したパネル、『牛肉・豚肉の秘密』として、お肉の栄養について、『仙台黒毛和牛』、『宮城の豚みの
り』、『しもふりレッド』の銘柄を紹介するパネル等8点を展示しました。

アンケートでは、「これからも、たくさん牛肉、豚肉を食べたい
と思いました。」「肉牛、肉豚の一生が短くてビックリした。
大切に食べようと思った。」「豚肉も牛肉もこだわりの生産がさ
れているのがよくわかりました。」「ブランド肉のことがよ
くわかりました。買い物ときは気を付けて購入したいと思いま
す。」等、たくさんコメントをいただき、生産者が丹精込めて
作っていること、県内産ブランド肉の良さを広く知ってもらえた
のかなと思っております。

震災から3年が経過し、創造的復興へ向け新たな1歩を踏み出
す年でもあり、今回実施した『仙台黒毛和牛』及び県内産豚肉、
『宮城の豚みのり』、『しもふりレッド』の試食が、生産者と消費
者を繋ぐ絆的役割を担えれば幸いです。



(価格安定課 亀井和也)

2014東日本デリーショー受賞結果

宮城県ホルスタイン改良同志会

本年度の東日本デリーショーは雲ひとつない澄み切った秋空の下に、去る10月25日(土)岩手県雫石町
の中央家畜市場において開催されました。

出品頭数は、ホルスタイン種186頭、ジャージー種12頭、合計198頭となり、宮城県からは20頭出品しました。

審査員は、北海道岩見沢市 酪農家 (株)瀬能牧場 瀬能 剛氏により行われました。

なお、宮城県の入賞牛は下記のとおりです。ご支援ご協力いただきました関係各位並びに会員の皆様方には心から感謝申し上げます。

記

第4部4席	アイスヴィレツジ	ゴールドロイ	マードック	栗原市一迫	(有)小山牧場
第6部5席	アイスヴィレツジ	コララミー	ロツキー	栗原市一迫	(有)小山牧場
第8部3席	ウツデイランド	スパークリング	エアロスター	角田市	渡辺 孝一
第8部5席	フロンティア	ジェーン	プライド	ジェラー	アイオーン
第10部1席	テーウエーブ	GIB	ローソリテイ	サンアツブ	ET
第14部1席	(リザーブ)	グランドチャンピオン	ファイフティーストーム	ラウンドアツブ	レベツカ
				丸森町	(有)半澤牧場
第14部3席	イチジヨウファーム	ルディー	プリンセス	コラ	
				丸森町	(有)半澤牧場
				丸森町	一條 薫
					(家畜改良課 庄司清文)

〈人の動き〉

NOSAI宮城

平成26年10月1日付

新	旧	氏名
中央家畜診療センター損防課長補佐	県北家畜診療センター診療課長補佐	鈴木 龍一

平成26年11月1日付

新	旧	氏名
家畜診療研修所診療指導課技師	中央家畜診療センター損防課技師	福田 純子

全農みやぎ

平成26年11月1日付

新	旧	氏名
畜産部 市場流通課	営農企西部販売企画課	横江 進

〈畜試便り〉

新しい基幹種雄牛「勝洋」号^{かつひろ}について

宮城県畜産試験場

畜産試験場で繁養している種雄牛「勝洋」号(写真1)が、新しく本県の基幹種雄牛に選抜されました。この「勝洋」号は、昨年度に基幹種雄牛となりました「好平茂」号とともに、スーパー種雄牛「茂洋」号の後継牛として、また平成29年に本県で開催される全国和牛能力共進会宮城大会においても、その息牛・娘牛らの出品で優秀な成績が期待されているところです。そして、「仙台牛」ブランドの名声を一層高めるべく、その一翼を担うことが期待されています。

【「勝洋」号のプロフィール】

「勝洋」号は、父に「茂洋」号を持ち、母方祖父に「安平照」号、母方曾祖父に「茂勝」号を持つ、兵庫系及び茂重波系の血縁が濃い血統構成の種雄牛です。

現場後代検定(去勢11頭、雌5頭)の成績は、枝肉重量473.8kg(去勢:492.3kg、雌:433.1kg)、ロース芯面積67.3cm²、脂肪交雑(BMS No.) 8.0及びバラ厚8.5cmとなっており、全国平均を大きく超えています。(表-1)。

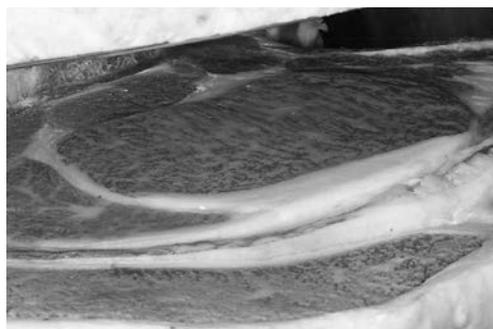
さらに詳しくこの検定成績をみると、BMS No.の平均8.0は、「好平茂」号と並び宮城県歴代1位の成績です。去勢でNo.12が2頭(母方祖父「茂糸桜」号及び「勝忠平」号の血統)、雌でNo.11が1頭(母方祖父「平茂勝」号の血統)記録しており、上物(A4・A5)率も87.5%と驚異的な値を示しています。また、県の改良方針に基づく総合育種価においても、「茂洋」号と同様な値となっています。

次に子牛の体型・発育値では、発育、体の伸びに優れ、体上線の強さが特徴で、飼料の利用性を示す余剰飼料摂取量の育種価も高いことから、効率的なエサの利用も期待できます。繁殖農家においても、安心して交配することができる種雄牛です。

「勝洋」号の家畜人工授精用凍結精液の供給は、平成26年12月から開始される予定となっており、人気沸騰の「好平茂」号と並び「茂洋」号に代わる種雄牛として利用することが可能です。



(写真1) 新しい基幹種雄牛「勝洋」号



(写真2) 産子の枝肉写真 (BMSNo.12、A5)

表-1 現場後代検定成績(検定牛16頭平均)

	①枝肉重量 (kg)	②ロース芯面積 (cm ²)	③バラの厚さ (cm)	④脂肪交雑(サシ) (BMS No.)
勝洋	473.8	67.3	8.5	8.0
全国平均	453.3	55.3	7.6	5.7

- ①枝肉重量(重い方がよい)
 - ②ロース芯面積(大きい方がよい)
 - ③バラの厚さ(厚い方がよい)
 - ④脂肪交雑(高い方がよい)
- 全国平均は、平成25年度までの検定牛の平均値。

期待される交配

「勝洋」号は、検定成績からみると血統を選ばない安定した能力を持っているものと思われます。増体能力に優れている気高系、藤良系の雌牛への交配は、茂金系も含めて安定した枝肉重量と肉質が期待できます。ただし、「茂洋」の娘牛との交配は、近交係数が10%を超えるため注意が必要です。

注) 現場後代検定: 種雄牛の産子を一般の肥育管理のもとで肥育し、後代(産子)に伝わる遺伝能力(増体・産肉能力等)を判定する検定。

(酪農肉牛部肉牛チーム 石黒裕敏)

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬(盛岡・水沢開催)12・1月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
12月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
水沢						水	沢						水	沢						水	沢										水	沢
1月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			水	沢								水	沢																			

※開催期間中の重賞レース

- ・12/1(月) 第31回プリンセスカップ
- ・12/7(日) 第37回北上川大賞典
- ・12/13(土) 第13回寒菊賞
- ・12/21(日) 第24回白嶺賞
- ・12/31(火) 第40回桐花賞
- ・1/4(日) 第41回金杯
- ・1/12(月) 第15回トウケイニセイ記念

平成27年度宮城県農業大学校 入学生の募集(一般入学試験:後期)

本校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することをねらいとして昭和52年4月に設立された農業大学校です。平成20年7月には専修学校の機能を付加し、平成21年4月に校名を「宮城県農業大学校」に変更しました。平成27年度入学生の一般入学試験(後期)が下記により行なわれますので、多数の出願をお待ちしております。

記

◇募集人員(推薦入学試験及び前期一般入学試験分も含む)

畜産学部15名、水田経営学部15名、園芸学部15名、アグリビジネス学部10名

(注)募集定員を満了した学部は、後期一般入学試験を実施しないことがあります。後期一般入学試験の募集人員は1月上旬にホームページ上に掲載します。

◇受験資格 高等学校卒業者(平成27年3月卒業見込みの者を含む)又はこれと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

◇募集期間 平成27年1月19日(月)～平成27年2月2日(月)当日消印有効

◇試験日時 平成27年2月17日(火)午前8時45分～

◇合格発表日 平成27年2月20日(金)午前10時

◇試験場所 宮城県農業大学校名取教場

◇試験科目 ①筆記試験・国語総合(60分)
・数学I(60分)
・小論文(60分 800字)
②面接試験・個人面接(15分程度)

◇専修学校のメリット

①卒業生に「専門士(農業専門課程)」の称号が付与されます。

②卒業生の4年制大学への3年次編入学が可能となります。

◇奨学金制度

①本大学校を卒業後、就農を予定されている方は、公益社団法人みやぎ農業振興公社から奨学金(1.5万円/月)の支給を受けることができます。(※卒業後、宮城県内に4年以上就農しない場合は返還の必要があります。)また、本大学校の養成課程は、国の事業である青年就農給付金(準備型)の対象になります。

②(独)日本学生支援機構の奨学金制度が利用できます。

※詳しくは、宮城県農業大学校教務部学生班・教務班(電話022-383-8138)までお問い合わせください。

〈衛生便り〉

「高病原性鳥インフルエンザ」について

北部地方振興事務所
栗原地域事務所畜産振興部

渡り鳥が飛来する季節となりました。毎年この季節になりますと、養鶏関係者の中で高病原性鳥インフルエンザへの関心が高まります。今年は4月に熊本県で、国内では3年振りとなる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。隣の韓国でも、今年1月から9月にかけて本病の発生が確認されていますので、本病への関心が高まっていることとします。

高病原性鳥インフルエンザは、鶏・あひる・うずら・七面鳥等に高い病原性を示す致死率の高い疾病です。

家畜伝染病予防法における法定伝染病に指定されており、発生が確認されますと飼養鶏全ての殺処分や、移動制限が義務づけられます。

本病の主な臨床症状には、突然死、呼吸器症状、顔面や肉冠の浮腫、産卵率の低下、首のねじれ等の神経症状、下痢等の消化器症状があります。

感染経路は、鶏から鶏へ直接感染するだけでなく、本病ウイルスに汚染されたふん、飼料、水のほか、人や車両等を介しても感染します。

高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するためには、関係者以外の出入りを極力避けるとともに、野鳥や野生動物の侵入を防ぐことが大切で、これによりウイルスの侵入を防止します。

鶏舎内外の清掃や踏み込み消毒槽の設置、敷地内への消石灰の散布、適度な飼養羽数や換気等の環境整備、適切な飼料給与等のポイントが挙げられます。

これらは本病の発生防止対策に限らず、他の疾病の発生予防・まん延防止にも繋がります。衛生管理の基本ですので、徹底して実施していただきたいと思えます。

また、万一飼養鶏に異常が見られた場合は、速やかに最寄りの家畜保健衛生所、畜産振興部、管理獣医師へ連絡をお願いします。

(畜産振興班 鈴木一茂)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト(<http://www.keiba.go.jp/>)でもご覧になれます。

(担当:審査部登録課 電話03-3583-2142)

〈New face〉

宮城県農業共済組合連合会

中央家畜診療センター
すやま ゆきの
巢山 由乃

はじめまして、平成26年6月より宮城県農業共済組合連合会、中央家畜診療センターに配属されました。巢山由乃と申します。出身地は東京都豊島区、出身大学は日本獣医生命科学大学です。小さいころより猫が大好きで猫と暮らしている中で獣医という職業

を知ったのが獣医師を目指す一番の始まりでした。獣医という職業が人と動物の間に立つ架け橋のような存在であることを知り、私も恥ずかしながら人と動物の間に立つ架け橋のような存在になりたいと思うようになりました。大学に進学し、研究室では犬猫の整形外科についてどっぷりと勉強をしていたため、犬猫の獣医師になると周囲に思われており、産業動物獣医師になると周囲に告白した際、教授をはじめあらゆる先生、同級生になぜなのかと聞かれました。大学5年の夏休みに山形へ二週間、農業共済の実習に行き、牛や農家さんと真摯に向き合う先生の姿がとても印象に残り、また経済動物として、牛を診療するということの難しさを感じ、もっと牛について勉強したいと思いました。大学を卒業したら東北に行きたいと考えていたため、大学5年11月にNOSAI宮城で実習させていただきました。その時に、往診に同行させていただいた先生より、犬猫の整形外科について勉強してきたことを牛で活かしていったらどうかという言葉いただき、大動物臨床に進むことを決めました。宮城での実習経験によりこの道に進みたいと強く思い、産業動物獣医師を志したため、今はその原点の宮城県で産業動物獣医師として勤務できていることを心から嬉しく思っています。

10月からは一人で往診をするようになり、一軒一軒、診ている牛一頭一頭が、今日は昨日より良くなっているか、自分の治療がどうだったのかとドキドキしながら、毎日を過ごしています。今、自分が産業動物獣医師として宮城県で働けていることは、多くの方に支えられているからこそであると感じています。牛が幸せに生活できるよう、わたしも日々勉強し、精進していく所存ですので、これからもよろしくお願い致します。

〈農業大学校生の抱負〉

先進農業体験学習を終えて

宮城県農業大学校畜産学部1学年
畜産学部 伊藤 実夏

私の出身地は加美町で、家は酪農を営んでいます。私は高校が普通科でしたが、乳牛の適切な飼養管理を学びたいと思い、宮城県農業大学校に入学しました。岩出山の畜産試験場での朝の飼養管理では牛や豚と接する機会が多く、以前よりも畜産について興味を持つようになりました。

9月の先進農業体験学習では大和町で酪農を営んでいる佐藤さんの牧場でお世話になりました。牛舎ではえさ寄せ、除糞、搾乳、飼槽掃除、哺乳などの作業を行いました。これまで家の仕事を手伝うことはあまりありませんでしたが、今回の研修では初めて一連の酪農の作業を学びました。特に印象に残っている作業は搾乳です。実は、搾乳をしたのも初めてでした。最初はミルカーをうまく乳頭につけることができませんでしたが、佐藤さんの親切なアドバイスでミルカーもスムーズにつけられるようになりました。そして作業にも早く慣れることができました。また、研修中には直腸検査も体験させていただきました。直腸内に手を入れ子宮や卵巣を見つけるのは難しかったです。私は自分で子宮や卵巣を見つけることができませんでした。しかし、これは私にとってとてもいい経験になりました。この経験を家畜人工授精師の資格を取得するための勉強にも活かしていきたいと思います。

毎日の作業を通して適切な搾乳技術や飼養管理について学ぶことができました。飼養管理では牛の快適性を考えることが重要だということが分かりました。また、各農家によって搾乳やえさの給与の仕方などの飼育方法が異なっていることにも改めて気づくことができました。

研修では家や学校ではなかなか経験できないこともたくさん体験させていただきました。この33日間はとても充実しており、私にとってたいへん貴重な時間となりました。研修で学んだことを忘れず、今後の生活・学習にも活かしていきたいです。

